

銀座地域における街路ファサードの色彩構成と環境認知及び行動特性について その1 - 行動特性の変化について -

日大生産工 (学部) ○町田 和大
日大生産工 (院) 岡野 由佳
日大生産工 大内 宏友

1. 研究の背景と目的

本稿では銀座地域における、特に行動特性の変化について報告するものとする。

これまでの既存研究においては、都市商業地域で個性を有していると思われる銀座を研究の対象とし、環境認知の心理的要素の調査より得られたデータをもとに、行動特性と色彩認知との相関を分析し地域ごとに色彩認知3Dモデルを作成し考察を行ってきた。

実際に対象地を訪れる各年代の人々がどのように行動しているかを明確化し、2000年と2012年における行動強度を比較することを目的としている。そのため、心理量調査により得られた環境認知の行動範囲を各世代の行動強度図とし2000年と2012年の変化の分析を行う。

2. 調査概要

調査対象地域は東京都中央区銀座のメイン通りである晴海通り・中央通りを選定した。対象地域において人の景観が構成される際の物理的要因と心理的要因の相関分析を行うため、心理量調査としてアンケートを行った。

2.1. 心理量調査

調査対象者は一般の人々のとらえる認知を明らかにするために、現地においてアンケートを行った。調査項目は、属性調査、行動調査、景観認知調査、イメージ調査である。

行動調査に関しては白地図を用い被験者に行動範囲を直接記入してもらい、景観認知調査の色彩認知調査に関しては、カラーチャートを用い被験者に色を選んでもらった。なお、アンケート地点は偏りをなくするため、特定の地点では行わないように留意しランダムに行った。表1に調査期間・時間帯、表2に被験者概要、表3にアンケート内容を示す。

表1 調査期間・時間

地域	時間	対象時間	心理量調査期間	物理量調査期間
銀座	昼間	10時～14時	2000年11月	2001年 1月
銀座	昼間	10時～14時	2012年 8月	2012年 8月

表2 被験者概要

調査年度	2001	2012
性別		
男性	43	54
女性	57	46
年齢		
10代	4	3
20代	37	24
30代	21	16
40代	9	16
50代	13	18
60代以上	16	24
合計	100	101

表3 調査方法・対象

属性調査	性別、年齢、職業
行動調査	頻度、目的、行動範囲
景観認知調査	色彩認知調査 ランドマーク調査
イメージ調査	15項目に対し5段階評価

3. 色彩認知・行動強度による認知特性

アンケートより得られた景観認知調査-色彩認知調査より、最も印象的な色1色と印象的な色5色をグラフで示し、対象地域における特徴を明らかにする。縦軸に11色相、横軸に12トーンで表記した。図1に銀座地域の色彩認知を示す。

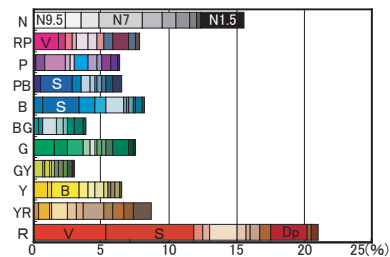


図1: 色彩認知特性 -銀座

3.1. 行動強度

アンケートより得られた行動調査-行動範囲より、圏域図示法^{*)}から得られたデータを地図上に重ね合わせ、行動範囲の強弱を4段階で表記する。左に各分類における2000年行動強度図を右に各分類における2012年行動強度図を示す。

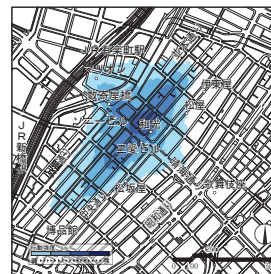


図2: 全世代 (2000)

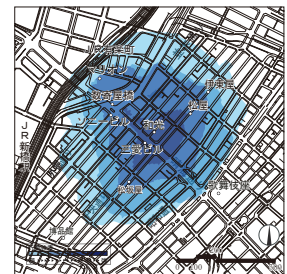


図3: 全世代 (2012)



図4: 10代 (2000)

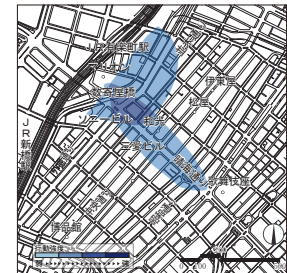


図5: 10代 (2012)

Color composition of street fasade and environmental acknowledgment and action characteristic
in the region of Ginza. part1

- Formative process in the action characteristic -

Kazuhiro MACHIDA, Yuka OKANO and Hirotomo OHUCHI

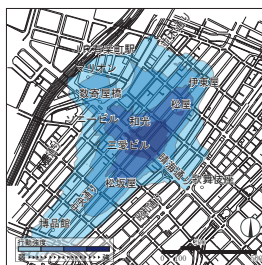


図 6:20 代 (2000)

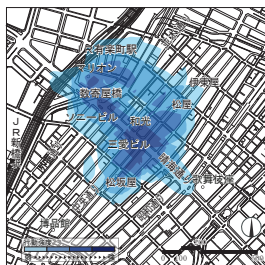


図 7:20 代 (2012)

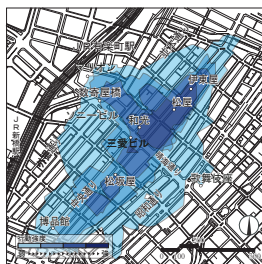


図 8:30 代 (2000)



図 9:30 代 (2012)

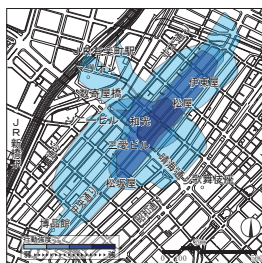


図 10:40 代 (2000)

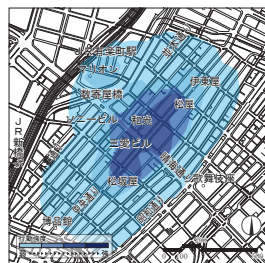


図 11:40 代 (2012)

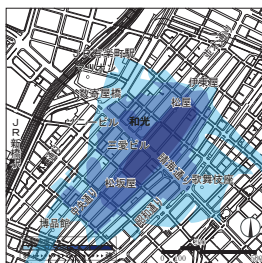


図 12:50 代 (2000)

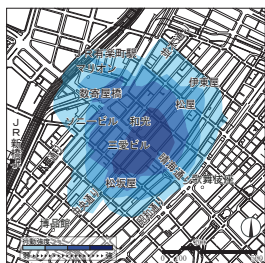


図 13:50 代 (2012)

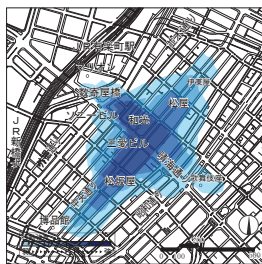


図 14:60 代 (2000)

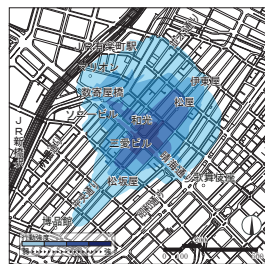


図 15:60 代 (2012)

4. まとめ

本稿では、心理量調査から得られた2000年銀座行動強度図と2012年銀座行動強度図による認知特性による比較により、以下のような関係が見られた。

4.1. 行動強度2000・2012年における比較

2000年行動強度図(図2)では、中央通り・晴海通りを軸に行動強度図が強く見られ、銀座4丁目の交差点からマリオン・有楽町駅方面への行動強度が見られた。2012年行動強度図(図3)では、中央通り・

晴海通りを軸とした行動強度の広がりではなく銀座4丁目の交差点から銀座の街へ面的な広がりを持つ行動強度が見られた。

4.2. 行動強度2000・2012年における年代別比較

[10代]: 2000年における10代行動強度図(図4)では、銀座西6丁目の交差点から銀座3丁目までの中央通りに沿った形で行動強度が見られた。2012年における10代行動強度図(図5)では、歌舞伎座から数奇屋橋までの晴海通り、数奇屋橋の交差点からプランタン銀座本店までの外堀通りに沿った形で行動強度が見られた。

[20代]: 2000年における20代行動強度図(図6)では、銀座4丁目の交差点から中央通り、マリオン・有楽町駅方面の晴海通りに凸型の行動強度が見られた。2012年における20代行動強度図(図7)では、銀座4丁目の交差点・マリオンの晴海通りに強い行動強度が見られた。

[30代]: 2000年における30代行動強度図(図8)では、中央通りマリオン晴海通りに凸型の行動強度が見られた。2012年における30代銀座行動強度図(図9)では、大きな道沿いではなく銀座西2丁目・銀座西3丁目を中心とし面的な広がりが見られた。

[40代]: 2000年における40代行動強度図(図10)では、銀座通り口から銀座5丁目の中央通りに強い行動強度が見られた。2012年における40代行動強度図(図11)図では、銀座2丁目から銀座5丁目の中央通りに強い行動強度が見られ街に面的な行動の広がりが見られた。

[50代]: 2000年における50代行動強度図(図12)では、銀座3丁目から銀座5丁目の中央通りに強い行動強度が見られた。2012年における50代行動強度図(図13)では、銀座4丁目交差点付近に強い行動強度が見られ、街に面的な広がりが見られた。

[60代]: 2000年における60代行動強度図(図14)では中央通り・晴海通り付近に十字形の行動強度が見られた。2012年における60代行動強度図(図15)では、銀座4丁目交差点を中心に中央通り・晴海通り付近に小さな十字形の行動強度が見られ、有楽町駅方面に行動強度が面的に広がりを見られた。

注釈

*1 圏域図示法

対象地域の範囲を示す適切なスケールの地図を提示し、その上に被験者の特定の領域、または境界点、文節点を記入してもらうものである。よって評価空間の把握を目的とするものと言える。



既往論文

- 1) 富田雅美、田胡智子、大内宏友：都市景観における街区の色彩構成と環境認知及び行動特性との相関について－銀座・原宿地域におけるケーススタディー－日本建築学会技術報告集第17号 2003.6
- 2) 田胡智子、大内宏友：都市景観における街区の色彩構成と環境認知及び行動特性との関係性－銀座・原宿・渋谷地域における色彩認知 3Dモデルの構築、第26回情報・システム・利用・情報シンポジウム 2003
- 3) 鈴木紀之、松原三人、大内宏友：銀座・渋谷地域における街路ファサードの色彩認知の布置と外来者の行動特性、2007年カラーフォーラム